

三宅島自然ふれあいセンター・アカッコ館による サンゴ生態系のモニタリングおよび環境普及活動

○内藤 明紀^{1,2}, 小寺 泰聖^{1,2}, 山本 裕¹, 篠木 秀紀¹, 大久保 香苗¹

三宅島

¹(公財)日本野鳥の会 ²三宅島アカッコ館

海も陸も魅力的で素晴らしい自然の三宅島

バードアイランドと呼ばれ、鳥の生息密度の高い三宅島。ですが魅力的で素晴らしい自然は陸地だけに限りません。海上ではさまざまな海鳥、海の中をのぞくとサンゴや色とりどりの海水魚を見る事が出来ます。その豊かな海は、島の生活においては大変身近なものであり、海の生き物とのふれあいは自然に関心を持つきっかけとして欠かせないものです。そこで島全体の自然環境の保全に関わるアカッコ館では1993年の開館以来、鳥類にとどまらず、海水魚やサンゴの調査、観察会など海の活動を続けています。

知る活動 ～海の世界や生き物の生息状況を知り、魅力を見つける～

三宅島は、環境省の「サンゴ礁生態系保全行動計画 2022-2030」において、「高緯度サンゴ群集域」に位置付けられています。暖かい黒潮の影響を受け多くのサンゴが生息しており、そのサンゴは海水魚など多くの生き物の生活の場としても、また観光資源としても重要なものとなっています。そのため1998年からサンゴ群集への人間活動の影響を評価し、影響の低減を目的にリーフチェックを行っています。三宅島 2000年噴火による中断後も再開し、2023年には20回目の調査を行いました。2023年までの調査結果からは造礁サンゴは調査年による増減や噴火等の影響はあるものの、大きな人間活動の影響はなく、健全な状態が維持されていることが確認されています。特に三宅島南西部の「富賀浜」には伊豆諸島最大級のテーブル状サンゴの群集があり、周辺の海洋生物の保全や観光資源としての重要性を伝える貴重な資源となっています。

また、島内には海岸に流れ出た溶岩によってできた潮だまりが数多くあり、生物多様性に富んだ場所となっています。安全に生き物の観察が楽しめ、海水魚など海洋生物の観察を活かしたエコツアーや自然体験学習を進める場として有効です。そのため、アカッコ館では1993年以降、潮だまりでの海水魚調査を行っており、特に南部の「長太郎池」では2024年9月末までに292種の海水魚を確認しています。

伝える活動 ～海の状況や豊かさ、楽しさ、大切さを多くの人に伝える～

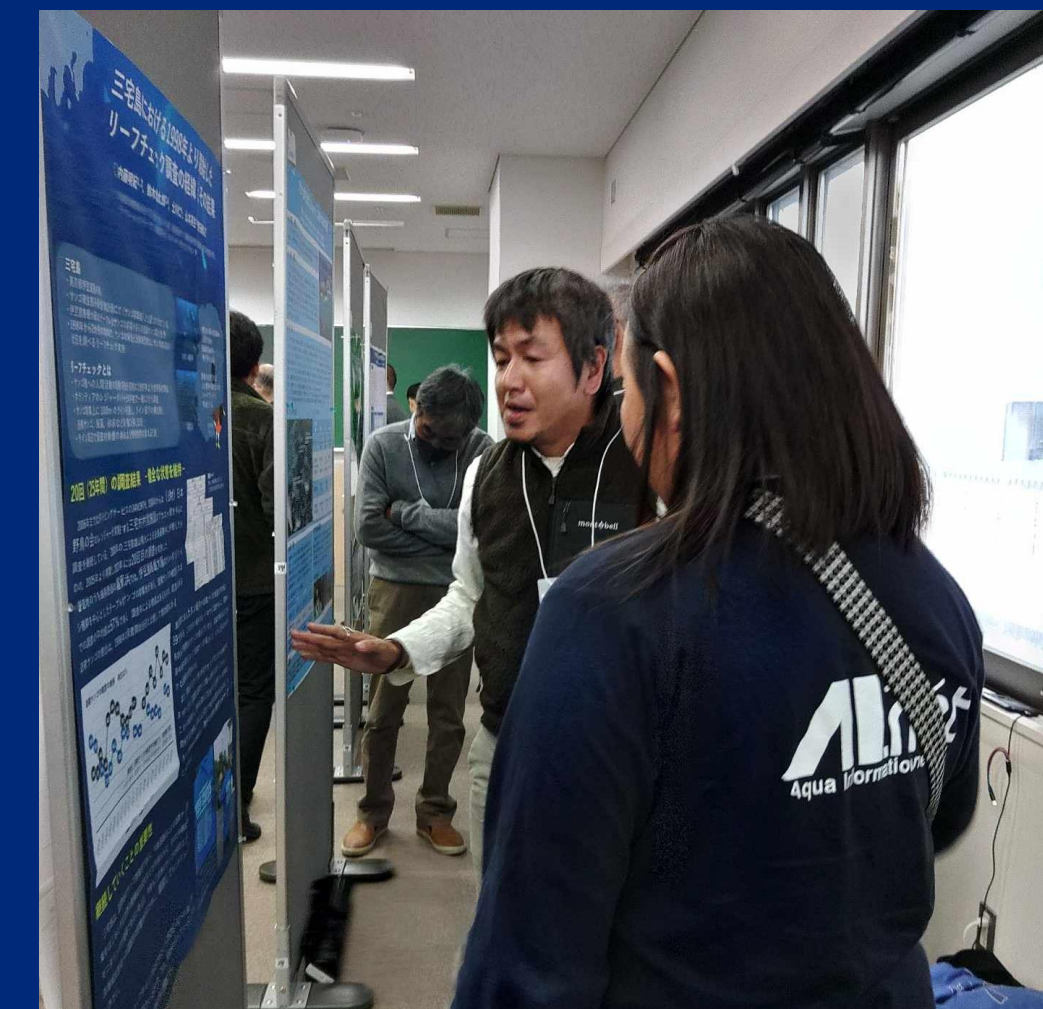
これらの調査で得られた情報はアカッコ館主催の観察会や地域の小学校の総合学習等で紹介しています。ここでは、潮だまりの生き物の魅力を伝え、かつ注意すべき生き物の喚起やサンゴに関する普及なども行っています。

また、長期にわたる記録からサンゴや海水魚の変化がわかり、近年の海水温上昇の影響を示すデータとしても活用しています。それらの調査結果は三宅村発行の研究報告書「Miyakensis」にて公開し、どなたでも見ることができます。

今後も、三宅島のサンゴや海洋生物の状況の把握を行い、その魅力や重要性を多くの人々に伝えていきます。そしてエコツアーによる島の経済への寄与と、人々が三宅島固有の自然に関心を持ち、保護活動に参加する機会を提供していきたいと考えています。

三宅島の自然がいつまでも価値のあるように

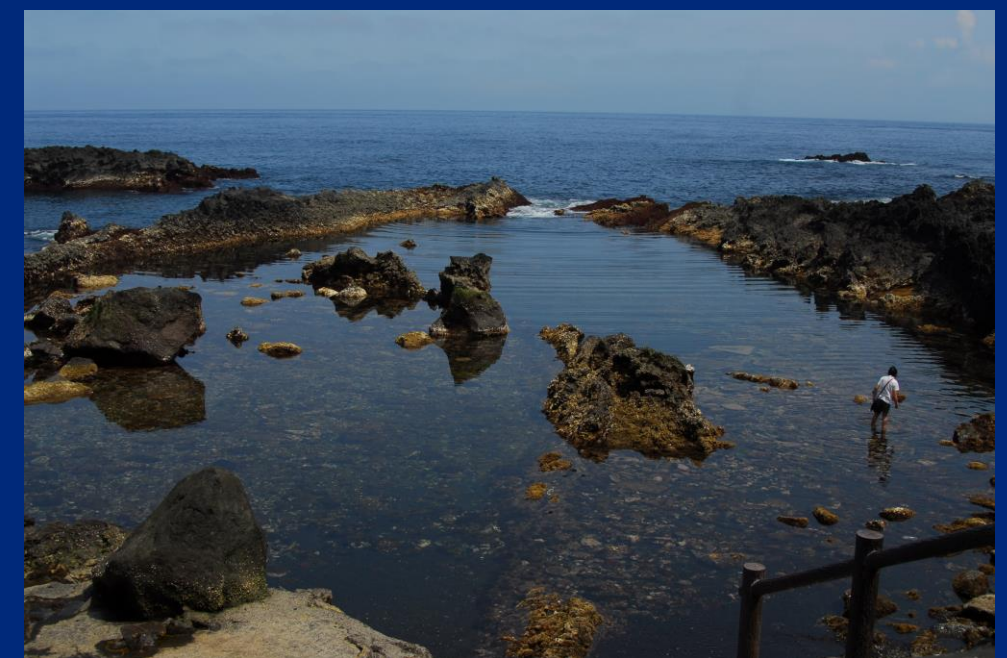
このような活動を通して、普段当たり前のように見ている海の価値に気づき、この海をいつまでも豊かなまま引き継いでいきたいと考えています。



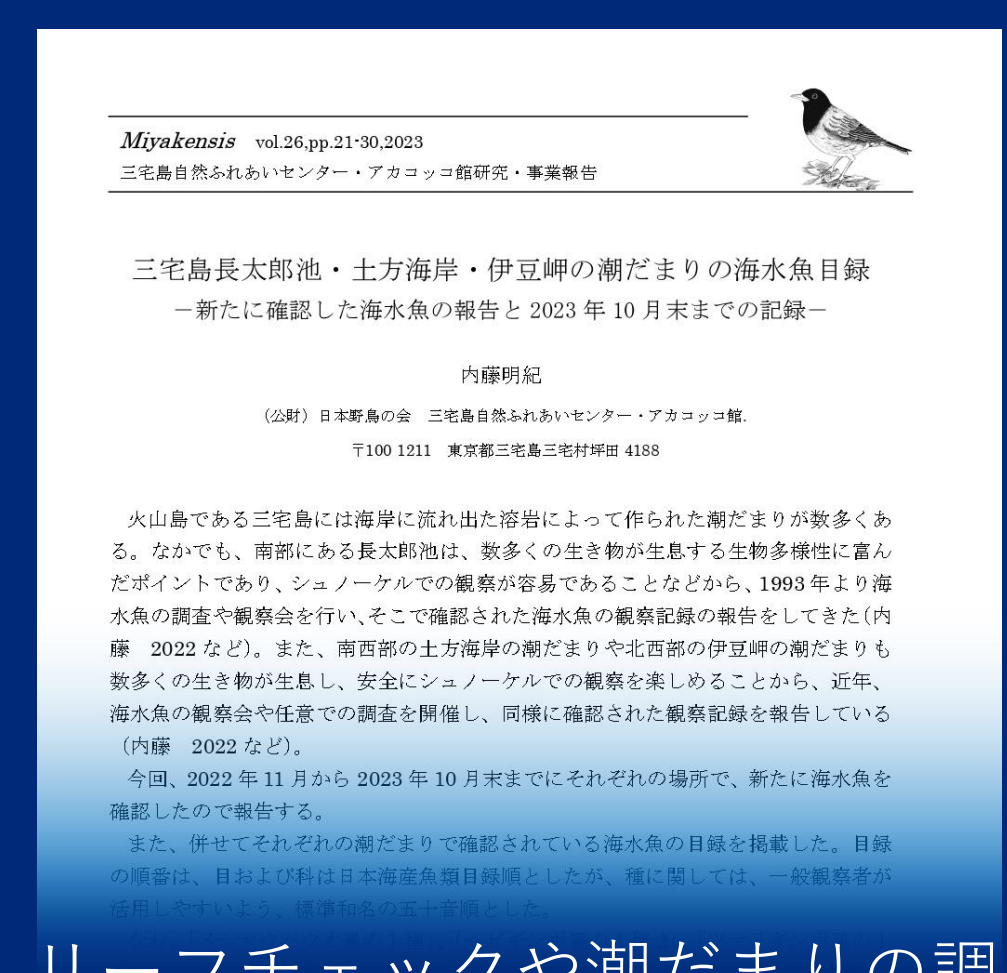
リーフチェック20回のおまとめを日本サンゴ礁学会第26回大会にて報告した



以前は冬に姿を消した「季節来遊魚」の海水魚も近年越冬する種が増えてきた



大昔の溶岩によってできた潮だまり「長太郎池」安全に海水魚の観察が楽しめるポイント



リーフチェックや潮だまりの調査記録はMiyakensisにて報告し、誰でも見ることができる



主催行事の開催や地元小学校の海の授業にも講師として参加海の楽しさ、大切さを伝える(左・上) 其の際、観察マナーや気を付ける生き物の指導も行っている(左下)



濡れた手でも気兼ねなく調べられるように防水にし、子供たちが観察した魚を自分で探させるように三宅島の潮だまりの魚に特化したレンジャー手作りの図鑑

三宅島自然ふれあいセンター・アカッコ館

- ・1993年開館の三宅村村営施設
- ・開館以来公益財団法人日本野鳥の会のレンジャーが常駐し、環境教育活動、自然保護活動、エコツアー推進事業を実施
- ・設置の目的：三宅島の野鳥や自然の観察等を通じ、住民の情操の涵養及び自然の保護と知的活用を図り、住民の福祉増進と自然とのふれあいによる交流型観光の推進に資すること（三宅島野鳥公園設置条例より）

公益財団法人日本野鳥の会

- ・あるがままの自然こそ尊しとする自然観のもと1934年に設立した自然保護団体
- ・会員・サポーター数の合計は約5万人

三宅島の鳥「アカッコ」
スズメ目ツグミ科
全長24cm
日本固有種・国天然記念物・絶滅危惧I B類

